

中間評価（表紙）

佐賀市歴史的風致維持向上計画（平成24年3月5日認定）
中間評価（平成24年度～30年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進	3
II 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援	4
III 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用	5
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 佐賀市における外国人観光客数の増加	6
ii 住民主導のまちづくり活動や地域コミュニティ活動の活性化	7
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 長崎街道再整備事業	8
B 構口公園整備事業	9
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 城下町の形成とその維持から見える歴史的風致	10
2 長崎街道と菓子文化の継承から見える歴史的風致	11
3 佐賀藩の近代化産業と伝統産業の継承から見える歴史的風致	12
4 城下町の恵比須信仰から見える歴史的風致	13
5 堀文化の継承から見える歴史的風致	14
6 祭事の継承から見える歴史的風致	15
■ 庁内体制シート（様式6）	16
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	17
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	18

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下町の形成とその維持から見える歴史的風致	I, III	
2	長崎街道と菓子文化の継承から見える歴史的風致	I, III	
3	佐賀藩の近代化産業と伝統産業の継承から見える歴史的風致	II	
4	城下町の恵比須信仰から見える歴史的風致	II, III	
5	堀文化の継承から見える歴史的風致	II, III	
6	祭事の継承から見える歴史的風致	II	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進		
II	伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援		
III	江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	佐賀市における外国人観光客数の増加		
ii	住民主導のまちづくり活動や地域コミュニティ活動の活性化		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	長崎街道再整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	構口公園整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】点在する歴史的建造物は、居住者の減少等によって維持管理が行われず老朽化や滅失が進んでいる。また、歴史的な趣を損ねた改修も多く、まちなみの統一感が失われつつある。歴史的建造物が多い柳町では、イベント開催時期以外は訪れる観光客も少なく、十分な活用が図られていない。
 【方針】歴史的建造物の文化財指定等を進めるとともに改修等への支援を行い滅失を防ぐ。また歴史的建造物の積極的な保存・活用を行い、歴史的建造物を活かしたまちづくりに取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	旧久富家・森永家住宅取得保存修理事業	建物取得改修し民間事業者による活用	あり	H24～27
2	佐賀市歴史民俗館保存修理事業	佐賀市歴史民俗館4棟を保存修理	あり	H24～
3	大隈記念館改修事業	内部・設備改修及び展示施設の更新	あり	H24～26
4	史跡「大隈重信旧宅」保存修理事業	耐震補強及び葺草屋根葺き替え等修理	あり	H26～28
5	まちづくりファンド事業	歴史的建造物への助成6件（H24～30）	あり	H23～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

● 旧久富家・旧森永家住宅取得保存修理事業

柳町景観形成地区に残る歴史的建物等を市が取得し、外観は往時の姿に復元したうえで、内部は公募した民間事業者の活用方法に合わせ改修を行い、カフェや写真館、紅茶専門店などとして活用を図った。市による建物等の保存改修と民間による活用という新たな取組が注目され、歴史的建造物を活かしたまちづくりの促進に繋がった。



改修後の旧久富家（外観）

● 佐賀市歴史民俗館保存修理事業

市重要建造物である佐賀市歴史民俗館を構成する建物等について、改修工事を実施し、歴史的建物の保全を図った。

● まちづくりファンド事業

民間所有の歴史的建造物について、改修費用等の一部助成を行うことにより、建物の保存を支援するとともに、民間による歴史的建造物を活用した交流・にぎわいづくりに繋がった。



改修後の旧森永家（内部）

④ 自己評価

柳町景観形成地区において、歴史的建造物の保存改修等を積極的に行ったことで、歴史的景観の維持向上が図られた。また、外観は歴史的趣を残しながら、内部は民間事業者による活用という新たな取組を行ったことで、イベント開催時期以外の観光客数がH24年度とH29年度比で約2万人増加しており、市の歴史まちづくりの拠点として充実を図ることができた。

⑤ 今後の対応

長崎街道・柳町景観形成地区では、歴史的なまちなみを保全する取組を進めるとともに、民間の活力を積極的に取り入れた活用方法の検討を進める。また、民間団体等とも協力し、現存する歴史的建造物の保存や活用について地域住民の意識向上に取り組む。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
方針	Ⅱ 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】高齢化や人口減少に伴い、地域の祭礼などが中止となったり、お宮等の維持が困難になるなど、地域固有の歴史文化が失われるおそれがある。また、無形の伝統文化や伝統技術の後継者育成が不足しており、文化財の保護と活用に対する市民への意識啓発が課題となっている。
 【方針】伝統文化について実態を的確に把握するとともに、継承活動などへの支援を行う。条件が整ったものについては文化財としての指定を進める。また、無形文化財を含め、文化財について市民の理解が進むよう市民啓発を引き続き行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	佐賀市文化遺産活用事業	佐賀城下探訪会参加者延べ2423人(H24～29)	あり	H23～
2	徴古館を活かしたまちづくり推進事業	企画展入館者延べ117,853人(H24～29)	あり	H21～
3	地域文化保存・継承支援事業	修繕等及び活動支援43件(H24～29)	あり	H21～
4	指定文化財要覧作成事業	要覧の概要をデータベース化	あり	H23～26
5	佐賀市無形民俗文化財継承支援補助金	10団体に継続補助(H29より11団体)	あり	H21～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

● 佐賀市文化遺産活用事業

市民団体のさが城下まちづくり実行委員会が主体となり、佐賀城下に残る文化遺産を活かした探訪会（年4回）や伝統文化体験教室等を実施することにより、市民への意識啓発を図った。



佐賀城下歴史探訪会 H29.10

● 徴古館を活かしたまちづくり推進事業

（公財）徴古館が所有する鍋島家伝来の歴史資産を活用し、年間を通じて企画展等を実施することにより、市民の歴史文化に対する意識向上を図った。

● 佐賀市無形民俗文化財継承支援補助金

国・県・市指定無形民俗文化財の保存団体などに対し、無形民俗文化財の担い手育成や普及啓発など保存会の運営に関する経費を補助することにより、地域での保存・継承の意識を高め、次世代の担い手育成の取り組みに繋がった。



H30.12.1ユネスコ無形文化遺産に登録された「見島のカセドリ」

④ 自己評価

各団体の伝統文化等の継承活動に対し補助・支援を行うことで、地域固有の伝統文化や歴史資源の維持・継承に寄与している。また、蓮池町見島地区に伝わる「見島のカセドリ」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、伝統文化の維持・継承の重要性と次世代育成に対する市民意識の向上が図られた。

⑤ 今後の対応

引き続き、地域に残る伝統文化や歴史資源の維持・保存及び継承に対する支援を行うとともに、本市の無形民俗文化財（見島のカセドリ）がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを機に、市民に対する啓発を積極的に行い、次世代の後継者育成に繋げる。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
方針	Ⅲ 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】佐賀城下に点在する歴史的建造物等を快適に周遊できる歩行者・自転車ネットワーク形成がされておらず、長崎街道沿いには休息も少ない。街道の道筋もわかりにくく、周辺の景観も歴史的な趣が感じられにくい。また、市の重要な景観である佐賀城は、東堀が埋め立てられており、江戸期の町割を伝える堀や石橋も見えないところが多く、城下町の風情が感じられにくい。
 【方針】城下町を快適に周遊できるルートの整備を行うとともに、休息の場である緑地の整備や景観に配慮した長崎街道の整備を行う。また、佐賀城の東堀復元や石橋の保全を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	佐賀城公園整備事業	東堀の一部を復元	あり	S43～
2	長崎街道再整備事業	延長1805mをカラー舗装(H26～29)	あり	H26～
3	周遊ルート環境整備事業	防護柵改修4箇所	あり	H25～
4	案内・説明看板及び誘導看板整備事業	案内サイン73箇所設置(H27～30)	あり	H25～
5	構口公園整備事業	石垣の遺構を活かした公園を整備	あり	H27～30

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

● 長崎街道再整備事業

平成26年度に整備計画を策定し舗装の高質化を順次実施している。曲がり角が多い長崎街道の道筋をカラー舗装で明確化することで、まち歩きがしやすい環境整備を行った。

● 周遊ルート環境整備事業

歩行者や自転車が快適に周遊できるよう景観に配慮した防護柵等の整備を行い、周辺環境の改善を図った。

● 案内・説明看板及び誘導看板整備事業

歴史資産等の案内看板等に統一性がなく老朽化しているものも多いため、まちなみに配慮した統一感あるデザインとした。また、板面の地図には江戸時代の佐賀城下絵図を用い、江戸期の町割が継承されている佐賀市のまちなみを示すことで、佐賀城下の歴史的風致への興味関心を高めた。



↓ 周遊ルート防護柵の改修



④ 自己評価

佐賀城下を東西に通る長崎街道やその周辺の環境整備によって、歴史資産が多く残る長崎街道沿いの景観が向上が図られ、まちなみの魅力が増した。また、案内看板等の整備により、来訪者がまち歩きをしやすい環境の充実を図るとともに、江戸期の町割が残る佐賀城下の歴史への関心を高めることに繋がった。



案内サイン

⑤ 今後の対応

明治維新150年を機に、佐賀城内や長崎街道沿いの柳町を訪れる観光客も増加していることから、より快適な周遊ルートが構築できるように引き続き環境整備を行うとともに、市内に残る江戸期の町割の重要性を広く周知し、保全に対する住民意識の向上を図る。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年																
効果	i 佐賀市における外国人観光客数の増加																		
<p>① 効果の概要</p> <p>外国人観光客（市内延べ宿泊者数）が6年間で約10倍に増加</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第2次佐賀市総合計画</td> <td>あり</td> <td>H27～36</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>佐賀市まち・ひと・しごと・創生総合戦略</td> <td>あり</td> <td>H27～31</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>多様化する観光ニーズを踏まえ、佐賀市ならではの観光の魅力を高め、国内外からの誘客を図るため、第2次総合計画及びまち・ひと・しごと創生総合戦略において「地域資源を活かした観光地域づくり」を掲げ、観光客増に取り組んでいる。</p>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	第2次佐賀市総合計画	あり	H27～36	2	佐賀市まち・ひと・しごと・創生総合戦略	あり	H27～31				
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	第2次佐賀市総合計画	あり	H27～36																
2	佐賀市まち・ひと・しごと・創生総合戦略	あり	H27～31																
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>平成27年3月に策定した「第2次佐賀市総合計画」ではまちづくり推進プロジェクトの一つに「賑わいと風格のあるまちづくり」を掲げ、柳町地区の歴史的建造物の保存・活用や周遊ルート環境整備等を進めてきた。</p> <p>また、平成27年10月に策定した「佐賀市まち・ひと・しごと・創生総合戦略」においても、地域資源を活かした魅力的な観光地域づくりの一環として、歴史的建造物・景観を活かした観光客誘致に取り組んできたところである。</p> <p>佐賀市への外国人観光客数は、平成24年度以降増加しているが、特に平成27年度以降は大幅な伸びとなっている。歴史的建造物の保存・活用整備を行った柳町地区においても多数の外国人観光客が訪れており、歴史資産を活用した景観保全の成果は顕著である。</p> <p>外国人観光客の受入整備として、ホームページや観光パンフレットの多言語化、インターネット等を活用した情報発信、海外でのプロモーション活動等を実施し、佐賀の認知度向上に努めた。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> <table border="1"> <caption>外国人観光客数(延べ宿泊者)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>千人</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="flex: 1; padding-left: 10px;"> <p>外国人観光客数(延べ宿泊者)</p> <p>千人</p> </div> </div>				年度	千人	H24	7	H25	13	H26	19	H27	50	H28	69	H29	71		
年度	千人																		
H24	7																		
H25	13																		
H26	19																		
H27	50																		
H28	69																		
H29	71																		
<p>④ 自己評価</p> <p>国内のインバウンド需要が高まる中、本市においても観光プロモーションや受入体制の充実を図ることで、アジアを中心に外国人観光客が大幅に増加した。歴史的建造物や景観を活かしたまちづくりも外国人観光客誘致に大きな役割を果たしている。</p>																			
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>今後も外国人観光客は増加すると見込まれる。多様な観光ニーズに対応するため、観光担当部署と連携を図り、本市の歴史文化や歴史的建造物等について情報発信を行うなど、外国人観光客受入れの充実を図る。</p>																			

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
効果	ii 住民主導によるまちづくり活動や地域コミュニティの活性化		

① 効果の概要

地域住民及びテナント活用者等による主体的なまちづくり活動の活性化

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第2次佐賀市総合計画	あり	H27～36
2	佐賀市街なか再生計画	あり	H23～

歴史的資産等を活かしたまちづくりを進める中で、地元自治会等による環境美化活動や地域の情報発信活動など、地域住民による主体的な活動が活性化した。また、柳町地区においては、市が整備する歴史的建造物のテナント入居者による組織や校区まちづくり振興部会が主体となり、住民主導によるまちづくりが積極的に行われるようになった。

③ 効果発現の経緯と成果

柳町地区に整備した旧森永家・旧久富家のテナント入居者による「柳町のれん会」が組織され、定例会議やイベント等を実施するなど、民間活用者による主体的なまちづくりが発現した。

また、周辺の施設関係者による「循誘まちなか振興会」では、地域の歴史や施設を掲載したまち歩きのガイドブックを作成するなど、地域住民等が主体となって積極的なまちづくり活動が展開されるようになった。

石垣遺構を活かした構口公園整備事業では、ボランティア団体等が公園周辺の緑化活動を新たに始めるなど、市が行う整備事業と民間活動が一体となって地域環境整備が促進されるようになるなど、地域住民によるまちづくりの意識が向上した。

「佐賀 柳町ぶらぶらマップ」
「佐賀 柳町ぶらぶらブック」
循誘まちなか振興会作成



④ 自己評価

市が歴史的建造物等の保存改修のハード整備を行ったことで、活用者や地域住民が主体となってまちづくり活動を行おうとする意欲が高められ、住民主導でのまちづくりや地域コミュニティの活性化に繋がっている。



⑤ 今後の対応

歴史まちづくりを進めるには、行政だけでは限界があり、地域や民間による主体的な取り組みが必要である。地域や民間などの自主的な活動を促進するため、情報提供や普及啓発等を行い、積極的に主体的な取り組みへの支援を行っていく。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
取り組み	A 長崎街道再整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

佐賀城下町を東西に通る長崎街道は、城内に近づくにつれて折れ曲がり、道筋がわかりにくい構造となっている。街道沿いには、歴史的建造物や赤石護岸、棚路なども多く残り、散策する来訪者も多いため、長崎街道の道筋を明確にする舗装の高質化（カラー舗装）を順次実施している。また、側溝蓋には「駕籠かき」のイラストを描くなど、長崎街道であるということが来訪者に一目で分かるような整備を行った。

【整備状況】H26測量設計・整備計画策定、H27整備延長L=750m、H28整備延長L=455m、H29整備延長L=600m、H30整備延長L=600m（予定）



【整備前】



【カラー舗装整備後】



駕籠かきイラスト（側溝蓋）

② 自己評価

長崎街道は、一部を除いて道筋や道幅が江戸時代のままの姿で継承されているが、曲がり角が多く道筋がわかりにくい上、新たな都市計画道路や開発で分断され、長崎街道と他の道路との区別がつきにくくなっていた。

これまでに整備完了した区間においては、他の生活道路との差別化が図られ長崎街道の道案内となっている。また、遮熱性舗装を採用したことにより、道路からの反射熱が抑えられ、来訪者が容易に長崎街道を散策できることに寄与している。

残りの区間においても長崎街道の美観を高める整備を行っていききたい。

外部有識者名	後藤 隆太郎 氏（佐賀大学 理工学部都市工学科 准教授）
外部評価実施日	平成31年1月18日

③ 有識者コメント

佐賀市の歴史的風致の向上に通じる効果的な事業と評価できる。特に、旧城下町を東西方向に走る街道を視認させ、顕在化させる取り組みは、現在に生きる市街地において近世城下町の歴史的な空間レイヤーを想起させる点で有意義である。

一方で、細部の設計や施工に関する課題として、整備時期や区間ごとに仕様（色、仕上げ、素材）にばらつきがある点が指摘できる。これまでの施工経験から最適な仕様を定め、今後、担当者や工事業者が変わっても仕様（デザイン）が統一的に実施されるべきである。また、街道が道路で分断される（街道と道路が交差する）場合にも、街道を知らしめるデザインを一貫して実施することはより効果的と考えられる。

④ 今後の対応

長崎街道のカラー舗装は基本の仕様を定め順次実施しているが、請け負う業者等による仕上げの相違が少なくなるよう、これまで整備した区間の中で最適なモデルケースを提示するなど検討し、残りの整備を進めていく。

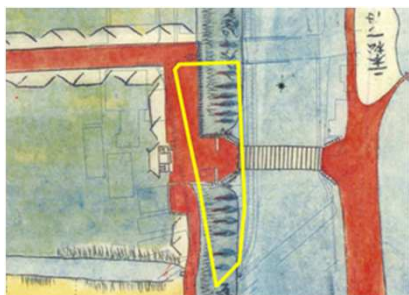
市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
取り組み	B 構口公園整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

佐賀城下東の入口にあたる構口において、平成28年度の文化財発掘調査の結果、江戸時代に架かっていた橋の土台の石垣が発見された。この発見により当時の橋の具体的な位置が明らかになるとともに、江戸時代の絵図に描かれている番所の位置も明確になった。

本事業では石垣遺構を活かし、佐賀城下の歴史を感じることができる公園整備を行った。

【整備概要】 H27土地寄附受納、H28文化財発掘調査・整備検討、H29文化財発掘調査・整備検討・石垣保全修復工事・公園整備着手、H30公園整備完了



江戸時代絵図と現代地図の重ね図
巨勢郷牛嶋村絵図(1785年 公益財団法人鍋島報効会蔵)



石垣発掘調査地全景



石垣修復・公園整備完了

② 自己評価

江戸時代の石垣遺構の発見により、当初予定していた公園整備計画を変更し、石垣遺構を活かした公園整備を行った。整備については、設計段階から文化財担当部署等関係各課や専門家等との意見調整を行い、事前に課題を把握して、石垣遺構をどのように活かした公園とするか検討を行い事業に取り組むことができた。

石垣遺構の発見によって、江戸時代絵図に描かれた塀や番所跡の位置も明確となったため、公園整備では、石垣の修復と併せ塀をイメージしたモニュメントを設置することで、佐賀城下の東の入り口であったという歴史を感じることができるよう整備を行い、歴史的風致の向上を図った。

外部有識者名	後藤 隆太郎 氏(佐賀大学 理工学部都市工学科 准教授)
外部評価実施日	平成31年1月18日

③ 有識者コメント

佐賀市の歴史的風致において重要な場所「構口」に着目した意義のある整備事業と評価できる。ただし、計画・設計の質に関して、遺構（橋台としての石積）と対置する護岸兼遊歩道のあり方、防護柵、舗装の色（街道との異なる）など、予算等の制約があるとはいえ、不可解な空間やデザイン、その計画・設計は残念である。

今回の整備は、公園（来訪者施設）、文化財・歴史的遺構、河川関連施設といった異なる視点の習合、基本コンセプトから細部にデザインに至る一貫性が必要となる難易度の高い案件ともいえる。今後の同様な案件に向けて、優良な事例に学ぶこと、適切かつ高いレベルでの計画・設計体制づくりが重要である。

④ 今後の対応

佐賀城下の東の入り口に位置する公園であり、地域住民の憩いの場としての利用のほか文化財・歴史的遺構としての価値を広く周知し、東西に通る長崎街道散策の起点として、周辺の歴史的建造物等と合わせて歴史的風致の維持向上を図る取り組みを推進していく。

また、今後、類似の歴史的資産を活かした公園等施設整備を行う場合には、工事担当課とより綿密に調整を行い、工事細部のデザイン等にも配慮するよう努める。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
歴史的風致	1 城下町の形成とその維持から見える歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 III 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用		

① 歴史的風致の概要

佐賀の城下町は江戸初期に完成しているが、城を囲む四方の堀の一部や水路と道路で区割りされた町割りが、石橋や棚路などと共にほぼそのままの位置と形状で現在まで継承されており、そこで行われる川干や消防などの活動も地域住民により今日まで引き継がれている。

また、江戸時代、武士の居住地は「小路」と呼ばれていたが、その多くが地名や自治会名などとして現在も使用されているほか、城下町北東部の柳町地区には江戸後期から明治、大正期にかけた歴史的建造物群が残り、歴史的なまちなみを形成している。

② 維持向上の経緯と成果

● 佐賀城お堀の復元整備

佐賀城を囲む四方の堀のうち、明治以降、その大部分が埋め立てられていた東堀の一部復元を佐賀城公園整備事業において実施した。このことにより佐賀城内の範囲がより明確となり、歴史的景観の向上が図られた。



佐賀城東堀の復元 H29.3

● 江戸期を継承する町割りの保全活用等

江戸期の古地図と現代の都市計画図を重ね合わせた地図（まち歩きマップ）を作成・配布し、佐賀城下の町割りを構成する道路や水路の多くが江戸期から継承されていることを広く周知した。また、古地図に残る武家地（小路）や町人地を解説する案内板を整備し、佐賀城下の歴史的景観への関心を高めた。

● 歴史的建造物の保全整備等

城下町北東部に位置する柳町地区に集積する歴史的建造物（旧古賀銀行、旧森永家、旧久富家など）の修復保全整備及び一般公開を行った。建物外観が往時の姿に復元されたことにより、長崎街道を含めた歴史的まちなみの形成が一層図られた。



石積護岸の整備 H28.6

また、旧森永家、旧久富家では、喫茶、ギャラリー、フォトスタジオなどが展開されており、まちの賑わいづくりに貢献する施設となっている。

③ 自己評価

東堀の復元により、不明確だった城内と外とのラインが目に見える形で分かるようになった。また、案内板や歴史的建造物の整備・活用が進んだことで、散策などを目的に城下町を訪れる観光客の数は着実に増加している。



旧森永家の保全整備 H27.2

④ 今後の対応

東堀については今後も復元工事を進める。また案内板や歴史的建造物の修復保全についても、計画期間終了まで順次整備を行う。探訪会、シンポジウムの開催といったソフト事業の展開や民間による歴史的建造物保全・活用の検討などを進め、城下町における歴史的風致の維持向上に努めていく。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
歴史的風致	2 長崎街道と菓子文化の継承に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的風致を構成する歴史的建造物の保存と活用の推進 III 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用		

① 歴史的風致の概要

佐賀の城下町には九州随一の幹線道路である長崎街道が東西に横断していたが、その道筋がほぼ当時まま残っている。この街道は江戸時代、海外に唯一門戸を開いていた長崎へと通じており、南蛮の品々が南蛮文化と共に往来していた。そのため佐賀藩は当時貴重であった砂糖を比較的容易に手に入れることが可能であり、砂糖を使った南蛮菓子文化が長崎街道沿いを中心に花開いた。（長崎街道は別名で「シュガーロード」とも呼ばれていた。）佐賀の職人が改良を重ね育ててきた「丸ぼうろ」は今でも市内の多くの店で焼かれており、市民の日常の中に息づいている。

② 維持向上の経緯と成果

● 長崎街道の整備

城下町を東西に横断する長崎街道（全長4.8km）の道筋を明確化するためのカラー舗装整備を順次行っている。カラー舗装の整備と併せ、所々には長崎街道や周辺の史跡・歴史資産などを解説するサインの設置を行ったことで、長崎街道を散策しながら、点在する歴史的建造物などを容易に訪ねることが可能となった。



整備前

● 菓子文化の継承

長崎街道沿いに花開いた菓子文化は現在まで引き継がれ、その代表的なお菓子である「丸ぼうろ」は今も贈答品などとして広く流通されている。「佐賀城下ひなまつり」などのイベント時には、観光客の前で実際に「丸ぼうろ」を焼いて販売する実演販売の取り組みが行われ、またアイスやチョコレートと組み合わせた新商品の開発なども行われており、市民に愛される地元の伝統的銘菓となっている。

また、長崎街道沿いの3県8市の自治体で設立している「シュガーロード連絡協議会」では、シュガーロードに関する情報交換や地域の菓子店と連携した菓子文化のPR等を実施しており、菓子文化の継承の取組に繋がっている。



長崎街道の整備

整備後

③ 自己評価

長崎街道のカラー舗装整備やその沿線におけるスポット的な公園、休憩所などの整備は徐々に進捗している。

また、長崎街道周辺自治体と連携し、シュガーロードに関する情報交換やPR、スタンプラリーなどのイベントを実施することにより、長崎街道で繋がる菓子文化の取組が広がった。



丸ぼうろの実演販売

④ 今後の対応

長崎と小倉を結ぶ長崎街道を広く周知するため、今後も引き続き、長崎街道及び周辺環境の整備を行っていく。また、長崎街道沿いに伝わる菓子文化の継承につなげるため、「長崎街道＝シュガーロード」の周知をさらに図り、シュガーロード連絡協議会加盟の周辺自治体や民間事業者と連携した取組を行っていく。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
歴史的風致	3 佐賀藩の近代化産業と伝統産業の継承に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援		

① 歴史的風致の概要

幕末、佐賀藩は西洋の科学技術の取得に力を入れていた。築地、多布施の2箇所に反射炉を設置し大砲の鑄造に取り組んだほか、南部の早津江川沿いには蒸気船の修理製造施設である三重津海軍所を設立し実用的な国産初の蒸気船である「凌風丸」を製造した。また、理化学研究所「精煉方」を設置し、大砲、蒸気機関や薬品などの開発研究を行っていたが、その際実験に必要なビーカーやフラスコなどのガラス製品を海外の文献から独自に学び取った技術で製作していた。ガラス事業は経営体系を変えながら引き継がれ、ジャパン吹きによる佐賀の伝統工芸品「肥前びどろ」として現在も製造・販売が行われている。

② 維持向上の経緯と成果

● 精煉方跡地の取得

精煉方跡地は、民間所有となっていたが、平成29年度及び平成30年度に市が所有者から跡地約1万5500平方メートルのうち、6500平方メートルを購入し発掘調査等を進めている。今後、大部分を取得することを目指しており、来年度以降は発掘範囲を拡大する方針である。精煉方そのものの遺物の発掘を行い、精煉方で研究された技術の変遷の解明を目指している。



佐賀藩精煉方絵図

● 三重津海軍所跡の世界文化遺産登録

三重津海軍所は、佐賀藩が設立した蒸気船の製造施設であり、遺構として発見されたドライドックは土と木を組み合わせた日本の伝統的な土木技術を用いて造られており評価が高い。平成27年7月に「明治日本の産業革命遺産群」として世界文化遺産へ登録されたことを機に、シンポジウムや各種講座等を開催し、佐賀藩の技術や歴史に対する市民啓発を図った。



三重津海軍所跡

● ガラス事業の継承

精煉方からの伝統技法が代々伝えられているガラス製造は、市の重要無形文化財にも指定され、伝統的な製法によって華やかな色使いのガラス製品が生産されている。伝統を守りながらも若手職人の育成や新商品の開発などが行われており、市でも催事出店時支援や設備等整備補助などにより伝統産業を守り継続する取り組みの支援を行った。



肥前びどろ

③ 自己評価

精煉方跡地を市が取得したことにより発掘調査等が可能となった。三重津海軍所跡は、世界遺産に登録されたことにより来訪者が増加したが、その代表的な遺構である「ドライドック」が地中に埋まっており、それを来訪者へどう表現していくのが課題である。

④ 今後の対応

精煉方や三重津海軍所跡については発掘調査等を進め、今後はその結果をみながら、市民が郷土の歴史文化に誇りを感じることができる場所として、整備活用の在り方等を検討する。伝統産業の継承については民間事業者の取組みに対する支援を引き続き行う。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
歴史的風致	4 城下町の恵比須信仰に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援 III 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用		

① 歴史的風致の概要

佐賀城下では至るところで恵比須像を見ることができる。他では例を見ないほどの恵比須像が家の軒先や辻々に祀られている。恵比須像が多い理由は諸説あるが、長崎街道沿いを中心に商売を営む人が多かったことから、商売繁盛を祈願し造立されたというのが主な理由と考えられている。市民の恵比須信仰は地域に深く根付いており、新たな恵比須像の造立や恵比須祭りなどの祭事が各地域で今日まで引き継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

● 恵比須まつり、恵比須大祭の開催

各地域で恵比須まつりが行われているほか、県下最古の木造建築である「楼門」がある与賀神社では、毎年1月に「十日恵比須大祭」が行われており、商売繁盛や家内安全を願う人々で大きな賑わいを見せている。



恵比須まつり

● 恵比須を活かしたまちづくり活動

市民活動団体「恵比須deまちづくりネットワーク」により市内に800以上あるとされる恵比須を活かしたまちづくり活動が展開されている。

平成25年度に開設された市内恵比須巡りの拠点「開運さが恵比須ステーション」では、市内の恵比須八十八体を巡るスタンプラリー（恵比須八十八箇所巡り）、小学校へのお出前講座、恵比須さんが鎮座する十五社を巡る恵比須御朱印巡りなど様々なイベントや企画などを実施されており、多くの市民や来訪者が参加している。

これらの活動により“佐賀が恵比須のまちである”との認識が多くの市民の中で広がっている。



出前講座（小学校での総合学習）

③ 自己評価

恵比須を活かしたまちづくり活動は年々盛んに行われるようになってきた。恵比須巡りやお出前講座のほか最近では恵比須を用いたグッズ販売なども行われており、市民の認知度も高まっている。



恵比須八十八箇所巡り

④ 今後の対応

市民活動団体などと連携を図りながら、観光担当部署等を通じて市民や来訪者へPRを行い、引き続き恵比須を活かしたまちづくりの取組を推進していく。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
歴史的風致	5 堀文化の継承に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援 III 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全と活用		

① 歴史的風致の概要

佐賀平野は低平地であるが故に深刻な水不足の問題を抱えており、それを解消するために用水・排水・貯留機能を併せ持つ堀（クリーク）が網の目のように張り巡らされている。堀は水の恩恵を与える半面、水害の危険性を併せ持つ施設であるため、これまで幾度となく大洪水に見舞われてきた。このような背景の中で、堀の機能保全を目的とした活動である「ごみくい」や子供たちを水難事故から守ることを祈願する「ひゃーらんさんまつり」などの行事が各地でわれており、現在まで継承されている。

② 維持向上の経緯と成果

● ごみくい活動

クリークの底にたまった泥土を揚げて水路の機能保全を図り、すくった泥については乾かして農地の肥料として使うといった佐賀の伝統農法である「ごみくい」活動が地域や市民活動団体、学生らの手により実施されており、佐賀の伝統的な資源循環型農法を伝え体験する取組が行われている。（外来種除去など環境美化活動と併せて実施されているものが多い。）



ごみくい活動

● ひゃーらんさんまつり

毎年4月下旬から5月はじめにかけて、堀の水が増え始める頃、子供の水難防止を祈願する「ひゃーらんさんまつり」が各地で行われている。地域の伝統的行事として継承されると共に希薄になりがちな地域コミュニティの醸成にも繋がる取り組みともなっている。



ひゃーらんさんまつり

● さがクリークネットによる活動

佐賀平野に網の目（ネット）のように張り巡らされた複合的水路「クリーク」を観光やまちづくりの場として利活用し未来へつなげるため、市街地の水路での和船乗船体験やカヤックによるクリーク散策、クリーク周辺でのマルシェなど、クリークを活かした新たな取組が市民団体により平成28年度から実施されている。



クリーク散策

③ 自己評価

地域、市民活動団体、学生などの努力により、近年では見られることが少なくなった「ごみくい」活動や、市内を走るクリークを活かした新たな取組が見られるようになり、市民等の中に本市の特徴である堀やクリークの文化を維持・継承する意識の高まりが見られるようになった。

④ 今後の対応

今後も地域や市民活動団体などが事業を継続していけるように、資金面、人材面、情報発信などの面で活動支援を行っていく。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
歴史的風致	6 催事の継承から見える歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 伝統と歴史に対する市民啓発と個々の活動への支援		

① 歴史的風致の概要

佐賀平野は広大な米どころであり、古くから米作りが営まれてきたが降雨や台風といった人知では防ぐことのできない自然に大きく左右されるものであるため、現在へ受け継がれる催事は水不足を解消するための雨乞いや五穀豊穡などを祈願するものが多い。代表的なものとして「市川の天衝舞浮立」、「白髭神社の田楽」、「三重の獅子舞」や小正月行事の「見島のカセドリ」などが各地域で今日まで受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

● ユネスコ無形文化遺産登録（見島のカセドリ）

見島のカセドリは、藁蓑をまとった「カセドリ」とよばれる青年が、地区の家々を訪れ青竹で畳や床を激しく打ち鳴らして、悪霊を払い、その年の家内安全や五穀豊穡を祈願する小正月の行事であるが、その活動が評価され、この度ユネスコの無形文化遺産に認定された。（H30.11月認定）

市では保存会の運営に関する経費への補助を行い保存継承を支援した。



市川の天衝舞浮立

● 佐賀市無形民俗文化財継承支援補助金

市内には、「浮立」「田楽」「獅子舞」など、地域で受け継がれてきた12無形民俗文化財があるが、過疎化、若年層の減少などにより、次世代の担い手不足が懸念されている。このため保存団体などの担い手育成や普及啓発、情報交換など、保存団体の運営に関する経費の補助等を行うことにより、無形民俗文化財の継承を図っている。



見島のカセドリ

③ 自己評価

見島のカセドリは、保存団体によるこれまでの地道な活動と、市無形民俗文化財継承支援補助の実施などが実を結び、ユネスコの無形文化遺産登録という偉業を成し遂げることができた。伝統催事の継承については、次世代の担い手不足が引き続き課題である。



白髭神社の田楽

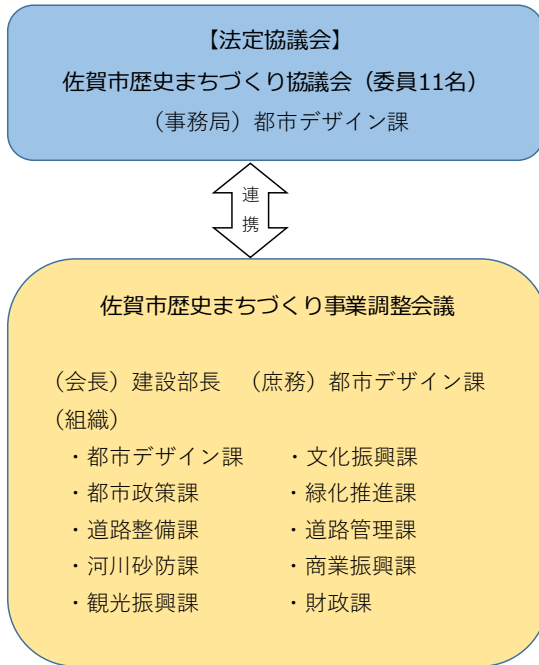
④ 今後の対応

地域の伝統催事の継承については、担い手の育成が引き続き課題である。今後も保存団体などの取り組みに対する活動支援を継続し、無形民俗文化財の継承を図っていく。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
------	-----	--------	----------

① 庁内組織の体制・変化

歴史的風致維持向上計画の推進にあたっては、法第11条に基づく「佐賀市歴史まちづくり協議会」を中心に、平成24年度からは重点区域を対象とした各種事業や取り組みを庁内の関係課で調整する「佐賀市歴史まちづくり事業調整会議」を設置し、円滑な事業推進を行えるよう庁内調整を図っている。



佐賀市歴史まちづくり協議会



歴史まちづくり事業調整会議

② 庁内の意見・評価

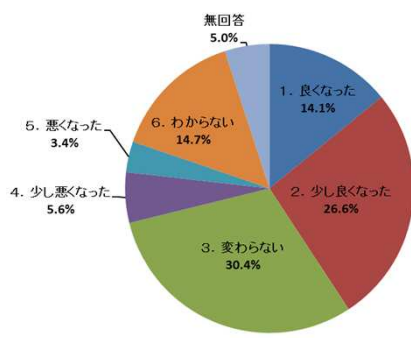
- ・歴史的風致維持向上計画の事業実施にあたり、複数の部署が歴史まちづくりという観点で情報を共有し取り組みを推進することができた。
- ・歴史的建造物の保存活用にあたっては、文化財としての価値判断、観光・集客の面からの活用方法検討、建築基準法等法令のクリアなど、多面的に見ていく必要があるため、今後も庁内で十分な連携体制を図る必要がある。
- ・歴まち計画の事業を進める際に、歴史的風致の維持向上という事業の意義を関係課担当が十分に理解しておくことが重要である。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
------	-----	--------	----------

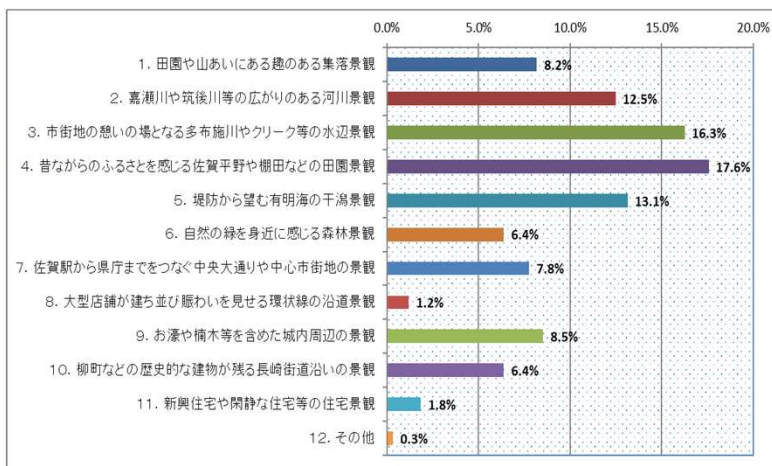
① 住民意見

■ 景観に関する市民意識調査の結果から
 （アンケート実施期間：平成30年5月18日～5月31日）

・「佐賀市全体のまちなみや自然の風景は、以前（10～15年程前）と比べてどうなったと思うか」に対し、約4割の市民が「良くなった」「少し良くなった」と感じている。



佐賀市全体のまちなみや自然の風景は以前と比べどうなったと思うか。



佐賀市全体において、今後も守っていきべき景観は何だと思うか。

② 協議会におけるコメント

・歴まち計画事業の実施により、歴史的建造物の保全や長崎街道の整備など、ハード面は少しずつ整備されていると感じる。

・柳町や長崎街道沿いには歴史的建造物も多く残り、歴史を感じることができる街なみであるにも関わらず、イベント時以外での来訪者は他都市に比べまだまだ少ない。

・市内には歴史やまちづくりに関する市民団体等が多くある。歴まち事業でハード整備がされることは良いことであるが、こうした民間の団体等と連携を図り、来訪者が増えるような取組を行うことが重要と考える。

・長崎街道再整備はよいと思うが、街道が車のぬけ道になっている。長崎街道沿いには小中学校などスクールゾーンも多いため、道路整備にあたっては関係部署とも協議を行ってほしい。

・歴まち事業の重点区域ではないが、佐賀には徐福の伝説もある。徐福関連の地域などとも連携をして歴史まちづくりの取組を進めてみてはどうか。

市町村名	佐賀市	評価対象年度	H24～H30年
<p>① 全体の課題</p> <p>1. 歴史的建造物の保存・活用及びその周辺景観に関する課題 所有者の高齢化や居住者がいないことなどにより、歴史的建造物の維持管理ができず、老朽化や滅失が進んでいる。また、歴史的建造物の維持や改修には多くの費用を要するため、個人での維持管理が困難になっている。</p> <p>2. 市民の歴史文化への理解と地域固有の歴史文化に関する課題 人口の減少、少子高齢化などから、地域固有の伝統文化や伝統行事等の後継者が減少しており、活動継承が大きな課題である。</p> <p>3. 道路や水路及びその周辺環境に関する課題 佐賀城下は、長崎街道をはじめ小路や水路など江戸期の絵図と同じ町割が残るが、城下町の風情を感じる場所は一部であり、来訪者には道筋もわかりにくいと感じる。また、市内を流れる水路には石橋や棚路も多く残るが、城下町としての風情を感じられる場所が少ない。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>1. 歴史的建造物等の保存と活用 ・長崎街道・柳町歴史景観形成地区では、歴史的景観を保全する取組を進めるとともに、民間の活用者や地域住民等との連携を図り、観光資源としての魅力を高める取組を進める。 ・民間団体等と協力し、個人所有の歴史的建造物の保存や活用について周知を行う。</p> <p>2. 伝統や歴史に対する市民啓発及び活動支援 ・地域に残る伝統文化や伝統行事の次世代への継承を図るため、引き続き、保存活動や後継者育成の取組に対し支援を行う。 ・市報等を通し、地域の伝統文化などの活動を広く周知し、活動の活性化を図る。</p> <p>3. 江戸期の町割を継承する道路や水路の保全活用 ・長崎街道再整備や案内板の設置等、まち歩きしやすい環境整備を引き続き進めるとともに、「まち歩きマップ」などにより江戸期の町割が現存していることを市民や来訪者に広く周知する。 ・長崎街道沿いの道路や水路を中心に、歴史的背景や景観に配慮した整備を目指す。</p>			